

## 51. 圧挫減創に対する高気圧酸素治療

高尾勝浩 川嵐真人 田村裕昭  
吉田公博 山口 喬  
(医療法人玄真堂川嵐整形外科病院)

大きな外力によって筋肉骨組織に損傷を受ける圧挫減創は、初期治療を誤ると血行障害をきたして切断を余儀なくされたり、重篤な感染症を引き起こすこともある。損傷組織の修復を促し、細菌の増殖抑制作用を併せ持ったHBOは、圧挫減創に対して有効な治療法である。当院でも圧挫減創に対してのHBOは良好な成績を得ており、症例数をさらに追加したので報告する。

1981年6月から2000年12月の期間に、HBOを行った圧挫減創は104例であった。性別は、男性90例、女性14例であった。年齢は4歳から78歳で、平均は44.9歳であった。部位別では手部55例、足部20例、下腿部18例、前腕部3例、下肢全体2例、大腿部、上腕部、肘関節部、手関節部、上肢全体、足関節部、が各1例であった。

方法は、中村鐵工所製第2種高気圧治療装置を用いて、2.0または2.8絶対気圧下で60分の純酸素吸入を1日に1回行った。

治療成績は、足部を広範囲に受傷した2例の足趾切断例を除けば、全例に対して有効であった。

圧挫減創に対するHBOは、高分圧酸素による抗浮腫効果、組織の酸素化による細胞機能の回復促進、感染防御能の改善面からも有効であると考えられる。また、創治癒期間の短縮は、在院日数の短縮さらには医療費抑制効果につながり、現在の社会の要求に応える治療法であり、ますます推奨されるべきである。

## 52. 両前腕高度挫滅を伴った重症犬咬傷に対してHBOが有効であった1例

宇都宮精治郎\*<sup>1</sup> 岩田浩一\*<sup>1</sup> 藤島英典\*<sup>2</sup>  
小串東子\*<sup>2</sup> 園田恵子\*<sup>2</sup> 泊 一秀\*<sup>2</sup>

\*<sup>1</sup> 国家公務員共済組合連合会  
新別府病院臨床工学室  
\*<sup>2</sup> 同 整形外科

高気圧酸素療法(HBO)が有効であったと考えられる重症犬咬傷の1例を経験したので報告する。

【症例】65歳女性、平成13年1月8日朝、バイクで通勤中猟犬2匹に襲われ、当院に救急搬入された。来院時 WBC:9,800/ $\mu$ l, RBC:3.11 $\times$ 10<sup>6</sup>/ $\mu$ l, Hgb:10.1g/dl, CPK:378IU/l、顔面、両前腕、両下腿に咬傷、出血性 shock を認め緊急手術を施行した。手術的診断は、両手関節解放脱臼骨折、右橈骨動脈・左尺骨動脈解放断裂。両前腕とも皮膚・筋挫滅が著しく橈骨・尺骨が露出していたが、離断しておらず右は尺骨動脈・左は橈骨動脈が残存していたので、amputation せずに経過観察することにした。左前腕は橈骨骨接合、皮膚縫合した。右前腕は、最も挫滅が著しく、橈骨骨接合を行うも十分な骨接合が得られず、尺骨も接合、皮膚も広範囲で欠損しており皮膚補填剤を覆った。

HBO は1月11日より2月19日まで30回行った時点で中耳炎を発症したため中止した。4月23日から組織の再生と植皮の生着を目的に HBO を再開し7月30日まで55回(計85回)施行した。HBO 条件は第1種装置、2~2.5ATA・60分純酸素加圧であった。

血清 CRP は、1月11日 22.2mg/dl から、2月5日 1.6 mg/dl まで低下。その後、洗浄・デブリードマン、両前腕有茎植皮術、と6回の手術を施行。皮弁の血行不良や重症感染の兆候もなく順調に経過。現在リハビリテーション中で、両上肢とも手関節の運動は不可能であるが、左は手指の運動がある程度可能になり、ドアのノブを回したり軽いものを保持できる程度まで機能回復している。